

令和6年度第4回長浜市未来こども若者会議 要点録

- 1 日 時 令和7年2月4日(火) 14:00~15:10
- 2 開催場所 長浜市役所5階 5-B会議室
- 3 出席者 ○委員(10名)
西川会長、大橋委員、佐々木委員、中澤委員、梅田委員、柏崎委員、中川委員、山内委員、荒井委員、脇坂委員
○市の出席者(事務局)
未来創造部：村崎次長(未来こども若者局長)
未来こども若者局：藤田管理監、山口管理監、為永管理監
未来こども若者課：小谷課長、服部副参事、茂森副参事、小川副参事、段主查
政策デザイン課：山崎係長
こども家庭支援課家庭児童相談室：森室長
健康推進課：前田課長、守本課長代理、濱田副参事
幼児課：稲葉課長代理 教育委員会事務局：高山次長
Next-i株式会社：安村氏
- 4 欠席者 宮本委員、鎌田委員、山岡委員、水上委員、澤委員
- 5 傍聴者 なし
- 6 内 容

<次第1. 開会>

○(事務局)

ただいまから令和6年度第4回長浜市未来こども若者会議を開催いたします。本日は、委員の皆さまにおかれましては、何かとご多用のところ本会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。本日の会議の終了予定時刻は午後3時を予定しております。円滑な議事運営につきまして、委員の皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

まず初めに、本会議は「長浜市未来こども若者会議規則」第5条第3項におきまして、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができないこととされております。本日、会議の委員15名のうち10名のご出席をいただいておりますので、会議が成立していることをご報告申し上げます。また、本会議は「附属機関等の会議の公開等に関する要綱」に基づき公開となっており、傍聴される方はまだいらっしゃいませんが、あらかじめご了承のほど、よろしくお願いいたします。

開会にあたりまして、未来創造部未来こども若者局村崎局長からご挨拶を申し上げます。

<次第2. あいさつ>

○(村崎局長)

皆さまこんにちは。本日はご出席いただきましてありがとうございます。本来は中嶋部長からご挨拶させていただくところではございますが、あいにく体調不良ということでお休みをいただいております。中嶋部長からは、市役所の中でいろんな会議がありますが、これだけ意見が活発に出る会議、またそれぞれの繋がりができていく会議というのはなかなかないので、このような会議に出られないのが非常に残念だ、というメッセージをいただいております。

今日は4回目ということで、計画の策定の節目となるような場面でございます。皆さまのご意見が計画の中に入っていることを改めてご確認いただきまして、次のステージに進んでいきたいと思っておりますので、ぜひよろしくお願いいたします。

<次第3. 報告事項>

○（事務局）

それでは次第3に入ります。進行につきましては、「長浜市未来こども若者会議規則」第5条第2項の規定に基づき、西川会長に議長として進行いただくこととなります。西川会長、よろしくお願いいたします。

○（議長）

今日は今年度最後の会議でございますので、報告事項が終わりましたら、委員の皆さまから一言ずつ言葉を、お言葉というか感想をいただけたらと思っておりますので、そういうことも含めて1時間で終わりたいと思います。

まず1つ目の報告事項です。(1)長浜市未来こども若者計画(案)に対するパブリックコメントの結果について、事務局から報告をお願いします。

報告事項(1)長浜市未来こども若者計画(案)に対するパブリックコメントの結果について

○（事務局）

それでは、パブリックコメントの結果につきまして説明をさせていただきます。昨年の12月16日から1月15日の1か月間におきましてパブリックコメントを実施いたしました。寄せられた意見はございませんでした。従いまして、11月6日に開催いたしました第3回未来こども若者会議において、計画の素案に対して委員の皆さまから出していただいたご意見を反映させた計画の修正案が、そのまま最終案ということになりまして、3月14日に開催される市議会の常任委員会において最終の報告をさせていただくこととなります。

本日は、第3回会議において議論いただいて、計画素案に対して皆さまからいただきましたご意見を最終案にどう反映されているのか、主な項目についてご説明いたします。最終案の概要版をお配りしております資料を確認いただければと思います。

まず、素案の中では、成長のアプローチを測る指標として、当初は、長浜が好きだと感じているこども若者の割合を設定しておりましたが、前回の会議の中で、成長アプローチというよりは、長浜が好きということが前提で、安心と成長と希望の3つのアプローチに繋がっていくことになるので、これは計画全体を測る指標にした方が良いというご意見をいただきました。

また、合わせて、その長浜が好きという表現について、長浜の捉え方や視点というのが、こども若者の年齢によって変わってくるといったご意見もいただきましたので、長浜に親しみや愛着があるという表現に修正しまして、これを計画全体の指標として設定させていただきました。

それに伴いまして、成長のアプローチの指標には、今の自分が好きと感じているこども若者の割合として設定をしております。

次に、成長アプローチの施策の方向性についてです。

1つ目に、こども若者が地域を誇りに思い、愛着を深める機会をととのえる、としておりましたが、この表現が右に続いていく施策パッケージや取組内容が整合していないということで、整合をとった表現にした方が良いというご意見をいただきましたので、こども若者と大人が世代を超えて関わりを持てる機会をととのえる、という表現に変更しております。

次に、安心アプローチの②の「就学前教育・保育の充実」の施策パッケージの主な取組内容について、保護者目線の取組は掲載されているが、保育する人の目線の取組が入っているとのおいしいご意見をいただきましたので、取組の中に保護者笑顔サポートということで、カッコ書きで働きやすい環境づくりを付け加えております。

次に、こども若者に対していろんな形でサポートをされている方がいて、その人たちの姿として「応援」という言葉や表現がどこかにあると良いというご意見をいただきましたので、3番目の希望のアプローチの2つ目の施策の方向性の中に「応援」という言葉を加えまして、こども若者が

やりたいことをみんなで応援して実現できる仕組みをととのえるという表現に修正しております。

次に、評価指標はKPIという表現になるのですが、これが少し堅苦しい表現で、この概要版の柔らかい雰囲気にはマッチしないというようなご意見をいただきました。この計画の目指す最終目標は、笑顔の回数を増やすということがポイントになるので、例えばNSP、ナガハスマイルポイントみたいな表現で書いた方がいいのではないかというご意見をいただきました。そこで、目標指標の単位を全てパーセントで表すように変更しまして、ご意見そのままの「NSP」を使わせていただいて、「長浜スマイルパーセント」という表現に変更しております。

最後に、今回の計画の大きな理念でもあり、最大の特徴として、こども若者だけではなく大人も一緒に楽しむ、成長するというような視点が挙げられますけども、大人目線の表現がちよっと少ない、大人も関わっていて、関わることを楽しんでいるというような表現を付け加えたいというご意見をいただきました。これにつきましては、この計画におけるこども若者とそして大人の関係性について再定義いたしました。素案の中では、こども若者イコール主役、真ん中で、大人が共に成長する人という表現をしておりましたけども、最終案では、こども若者を主人公、大人を共演者、共に成長する人という表現にしております。

これにつきましては、パブリックコメントを実施する前に委員の皆さまにお送りしました約160ページの計画素案の18ページに詳しく説明しておりますけども、こども若者の表現を主役から主人公に変えたのは、単に注目される存在ということだけではなく、様々な共演者と関わりながら成長して未来を切り開いていくという考えを含めたということで、主人公という表現に変えております。

また、大人を共演者と表現したのは、主人公、こども若者との関係において、責任感と役割を持ちながらもお互いに支え合って、導き合って、学び合って、そして楽しみ合う中で共に成長していくパートナーシップという考え方を大切にしたいと考えたからとなります。主人公と共演者は互いの成長を支え、共に未来を切り開いていく大切なパートナーということで、改めてこのような表現に定義をさせていただいております。

パブリックコメントの結果等につきましてはの報告は以上となります。

○（議長）

ただいまの説明について、委員の皆さまのご意見やご質問がありましたらお願いします。

委員の皆さまのご意見をかなり反映させていただいています。かなりというか、ほぼ全てですね。また後で振り返る時間もございますので、そこでまた何かお気づきでしたらお願いいたします。

それでは、次の(2)長浜市未来こども若者計画(案)に関する高校生ワークショップについて事務局から報告をお願いします。

報告事項(2)長浜市未来こども若者計画(案)に関する高校生ワークショップについて

○（事務局）

先ほど申し上げましたように、パブリックコメントによる意見はありませんでしたけども、この計画の主人公となりますこども若者から計画案について直接意見を聞く機会を設けさせていただきました。長浜駅前のえきまちテラス長浜1階にサードプレイス「itteki」という場所がありますが、そこに集まっている高校生とワークショップを開催しまして意見を聞いております。その概要につきましては、担当の茂森から説明をさせていただきます。

○（事務局）

未来こども若者課の茂森です。資料はお配りしておりませんので、前の投影画面をご覧くださいければと思います。

計画案について高校生の意見を聞くということで、高校生に約160ページある計画案を読んでも、なかなか読んでくれないというのがありますので、どうしたらいいかなとittekiのス

タッフと話し合いながらワークショップをやってみました。

参加してくれたのは、いつも来てくれる常連の高校生で、2年生と1年生です。先ほど説明しました資料の体系図を使って、まず知っている言葉にマーカーをしてもらって、その後、気になる言葉にアンダーラインを引いてもらい、短時間ですが2つのグループに分かれてやってもらいました。

1つ目のグループは、アプローチやミッションは非常にわかりやすい表現を委員の皆さまと作ったということで、このあたりは高校生も知っているということで線が引かれまして、興味を持った言葉としては、施策の方向性の中の安心の部分ですね、幸せに暮らせるという部分と、あとは希望については両方もやはり気になるという意見がありました。

施策パッケージの中では、子育てコンシェルジュやプレコンセプションケアなどの安心の部分、成長の部分ではICT活用の教育やキャリア創造、それに加えて、希望が結構手厚く気になるということで、テーマ別のワークショップや意見を聞いてもらえるような場所とかですね、そういったところが気になるという意見がありました。

ittekiにいつも来てくれているというところで、このように資料を見せると、ittekiをなぜやっているかということ自分を分たちで考えてくれて、「ittekiってこういうためにあるんだな」と言ってくれたので、とても良かったかなと考えております。

2つ目のグループについても同じような感じになりまして、安心のところでは、居場所ですね、安心して過ごせる場所ってというのは大事だよ、という話が出てきました。安心して過ごせる場所というのは、ittekiが僕たちにとってはそうだ、という話をしてくれました。

2つのグループで共通している部分としては、その安心と希望の他に、プレコンセプションケアが気になるとアンダーラインが引かれていました。カタカナにアンダーラインが多いのは、カタカナで全然意味がわからないから気になる、プレコンセプションケアは内容が全く想像できないから気になるというような話がありました。

また、1つずつのアプローチを見ていくと、安心のところでは、こんなにたくさん取組があることを知らなかったから、高校生たちも本当に驚いたということで、すごく感動しておりました。普段はあまりそのようなことを言う子たちではないのですが、「子育てコンシェルジュって何？」と聞かれた時に、こういうような取組だよと話をすると、やはりこれもすごいな、相談相手がいる、妊娠から子育てに向けて不安なところを解消するような取組があるってすごいなと意見がありました。

プレコンセプションケアの話をした時は、言葉の意味が分かって、妊娠前の話をされてもな、まだ彼女もいないし、みたいな話で、彼氏がいる人への話なら、みたいなところがあったりしまして、意味がわかってはまだ当事者意識を持てるかっていうと、その部分はなかなか難しいところかなと感じました。ただ、どこかでこのようなことを知ってもらえること自体はすごく良いことだと思いました。ヤングケアラーについては、「自覚がない子もいると思うけど、兄弟というのはそういうものじゃないか」みたいな話もありました。

さざなみタウンはですね、高校生からとても評価が高くて、あの施設ができるまで本当に行くところもなかったし、前の図書館は本当におじいちゃんおばあちゃんしかいなかったし、行く気が全然起きなかったけど、さざなみタウンはすごくありがたいから、本当に作ってくれた人にお礼が言いたいとコメントがありました。

成長の部分ですが、長浜の人口が減っていくということは、ほとんどの市内の高校で探求学習などを通じてお伝えいただいているので、高校生にとっても身近な課題だということと、人口が減ったら賑わいがなくなるっていうのは意識しているけども、自分も出ていきたいと。進学先もないし、面白いところは長浜にはないし、電車も少ないし、みたいなことを言います。自然が魅力って言われても、自然は小さい頃から当たり前にあって、高校生になって言われても、そんな

ふうにはあまり思わないといった正直な話がありました。一方で、子育てのタイミングになったら帰ってくるという気持ちはわかるし、親が近くにいた方が子育てしやすいだろうなという話がありました。また、ICT教育っていうのは、長浜市ではiPadなどタブレットを小中学生に貸与していることもあって、こどもたちに浸透して、ICT教育はすごく興味もあるし、これからもやっていきたいっていうことと、「ラーケーションの日」が始まったことを高校生たちは知らなくてですね、羨ましがっていました。

ittekiのイベントで、成長できる場所を体験してほしいというようなことは、高校生にも伝わっていると話が出ましてこちらも嬉しく思いました。希望がとても大事だというのは、高校生ぐらいになると、結構自立を意識し始めているところもあるので、ここの部分がとても関心があるといえますか、楽しいところにしたっていう気持ちもあるけど、何からしていけばいいかわからないということがあったり、大人にも話を聞いてほしいと思う時もあるんですけど、なんとなく大人からはそれっぽいことを言われてごまかされているような気がすると意見がありました。ただ、ittekiはそうではなくて、些細なことかもしれないですけど、一緒にやってくれることがとても嬉しいなと言っておられて、高校生たちも結構本質的なところをちゃんと見ているんだなということを感じました。高校生のチャレンジを応援してほしいとか、そういうことはとても嬉しいと思っていますし、何となく長浜市にお金がないっていうのはわかっているようで、クラウドファンディングのような、自分たちでお金を集める手段があるのは、すごく良いのではないかと。自分たちで提案して、お金を集めて実現までできる手段があれば、すごく嬉しいなという話がありました。

ワークショップをやってみて感じたこととしては、ittekiが心理的安全性の高い空間でできたのは結構大きかったかなと思います。また、知りたいことを自分たちが選んだっていう、その意識は高校生たちには最初なかったかなと思うんですけど、知ってることと知らないことをまず自分たちで選んで、その中で気になる言葉っていうのはどれだ、ということ自分たちで選んでもらったことで、その後の会話が弾んだかなと思います。こちらが知ってほしいことを一方的に伝えるとですね、やはり全然響かないことはよくあります。私たちもそれはよくあることですし、様々なところに関心が向いたりするので、そんなに深い話ができなくても、広い知識があって、幅広く知ることができれば、心に引っかかればいいかなと感じました。また、信頼関係を築く場所がやはり必要かなと感じましたので、全ての年代が集まれるようなさざなみタウンのようなところを使って、お互いに信頼関係が築けるようなことが必要かなと思いました。これまでの委員の皆さまと一緒に議論を深めていく中でお互いに信頼関係ができましたので、これだけ素晴らしい計画ができたのかなと思っています。地道ながらも、今後も、高校生を相手にこのような機会を増やしながらかけていけたらなと思っています。

もし、ittekiでこういったテーマでもやってくれないか、ということがございましたら、言っていただければ、なかなか少人数で地道な活動にはなっていくかもしれませんが、いつでもご連絡いただければと思います。

○（議長）

高校生の皆さんしっかり考えていますね。ぜひ主人公にして共演したいですね。ただ、やはりその主人公と共演者がいることで初めて成り立つわけで、そういう場というのは具体的にこれからどのように作っていくのかなっていうことは、ちょっと今のご報告を聞きながら、例えば、ittekiの常連さんに聞いてみたということですけど、ワークショップをするから集まってもらったわけではなく、その日にその場で実施したことですよ。そういう主人公と共演者、どう作っていくか。作らなくてもできるのかな。

○（委員）

西川会長のおっしゃったとおり、ittekiだからいいですけど、普通にするとやはりできにくい。

例えば計画が出たとして、その後、子ども若者の声が社会に反映されるっていうけど、どこに行けばいいのかという時に、その窓口で、例えば学校の先生や誰かが「どうやろうなあ」みたいなことで終わると、それで終わってしまうと思うんですね。それこそ信頼関係を築くという意味では、新しい仕組みできたからまた言ってね、では進まないように思います。小学校や中学校のある日に、今日はこういうワークショップします、みたいな色々みんなで喋りましょうみたいなのをやって、それを定期的にやる中で、ここに言いに行ったら聞いてくれるよ、みたいになれば、長浜市全体として、そういう窓口があって喋れてみたいな感じになると思うんですね。今回もittekiで、別にワークショップをすることを高校生は知らずに来て実施したことが大事で、大人も同じような場があればいいなど。例えば企業の方とかいろんな方も巻き込んでやっていくことで、子どもたちの体験みたいなのをやってくださると、いろんなことをやっている大人が集まるのかなと思いました。

○（委員）

高校生が希望のところを意識して見てくださったのは、すごく明るいなと思って聞いておりました、高校生が進路を考える時に、夢の応援プロジェクトみたいな形で、長浜市内でも活躍されている方はいっぱいおられると思うので、夢の足がかりになるような、1人をとことん応援してみたいな、すごく面白いなと思いましたし、そういう場所を利用して、いろんな職業の方の話を聞ける場、今回はこの病院の先生の話が聞ける、今回は自営業でやっている人の話が聞けるみたいな、自分たちの夢を叶えられるようなことに繋がるような仕組みや取り組みがあれば、とても面白そうだなと思いました。

○（議長）

可能性はいろいろありますね。そのような話を聞いていると、大人もワクワクすることができそうな感じがします。本当にいろんな立場で参画していただけたらなと思います。ありがとうございます。はい、それでは、次に参ります。

(3)長浜市未来子ども若者計画(案)の概要版・わかりやすい版について、事務局から報告をお願いします。

報告事項(3)長浜市未来子ども若者計画(案)の概要版・わかりやすい版について

○（事務局）

未来子ども若者計画の本編につきましては、約160ページのボリュームがありまして、なかなか一般の方に読んでいただくことは難しいかと考えております。従いまして、計画のダイジェスト版というものと、あとは主人公の子ども若者も手に取りやすいようなわかりやすい版という2種類の資料を作成するというところで作業を進めております。まだ完成はしていませんが、本日はレイアウトイメージについて説明をさせていただこうと思っております。両方の資料には、子ども若者と大人の夢が詰まったドリームマップを掲載する予定をしております、ドリームマップの中には、前回の会議の中で、もっとお年寄り、おじいちゃん、おばあちゃんの絵も入れてというようにリクエストもいただいておりますので、そういうことも反映していきたいと考えております。それでは、ダイジェスト版とわかりやすいそれぞれの担当から説明させていただきます。

○（事務局）

失礼いたします。未来子ども若者課の小川と申します。まず、計画の概要版についてご説明いたします。計画本編の中から特にお伝えしたいことを抜粋いたしまして、わかりやすくまとめたものがダイジェスト版となります。ダイジェスト版につきましては、表紙、裏表紙を含んで合計20ページの資料を予定しております。

ダイジェスト版を見開きで見た時に、各ページがどのような構成やレイアウトで表せるかを示しております。1ページ目の表紙をめくりますと、2ページ目、3ページ目が見開きで見えるよ

うな形になっているんですけども、2～3ページにつきましては、計画策定の趣旨などを記載しまして、4～5ページにつきましては、図で見ることも若者の状況でありますとか、長浜市が100人のまちだったらといった図やグラフを示したいと考えております。6～7ページにつきましては、計画策定に向けて委員の皆さまからたくさんご意見等をいただきましたので、ご意見等をたくさん掲載したいと考えております。8～11ページにつきましては、計画の骨となります大切にしたい考え方や3つのアプローチ、施策体系図を記載したいと考えております。12～17ページにつきましては、地元出身のイラストレーターの中尾さんに描いていただきましたドリームマップのイラストでありますとか、3つのアプローチに紐づくパッケージイメージ、妊娠期から出産期、乳幼児期、学童期など、ライフステージに応じた市の子育て施策や子ども若者施策を未来戦略MAPとしてイラストで表現したいと考えております。18～19ページにつきましては、計画の推進体制を見開きで掲載したいと考えております。概要版の説明は以上です。

○（事務局）

計画のわかりやすい版ということで、先ほどの説明にありましたイラストレーターの中尾さんに描いていただいておまして、わかりやすい版と言いますと、やさしい版という表現が使われているところもありますが、ここまで良い出来のものを作っていただいたのなら、「読みたくなる版」という名前にしたいなと思っています。本当に読みたくなるようなところを意識しながら、中尾さんと一緒に作らせてもらっています。中尾さんのイラストはとてもわかりやすくなっておりまして、中尾さんに全てお任せすればいいんですけども、委員の皆さまからいただいた意見がしっかりと伝わるように、私の方である程度ドラフトを作ってお渡しして、それを中尾さんにイラストにさせていただいています。この読みたくなる版を作る意図としましては、柏崎委員がおっしゃっていただいたように、いろんところでこれを題材にお話ししていただけるようにできればなと思っています。読みたくなる版は、小学校4年生ぐらいまでの漢字しか使わないようにしておまして、小学校4年生以下の子どもたちについては、お父さんやお母さんと一緒に読んでいただけるといいかなと、読み聞かせみたいな形にさせていただけるといいかなと思っています。高校生も読めるような感じに、なるべく子どもっぽくならないようなところも意識していますので、ぜひ地域や学校でもこれを基にお話ししていただけるようになればと思っています。印刷については、当初はデータだけと思っていたのですが、先ほどの概要版も、こちらの読みたくなる版もですね、ある程度の数量を印刷しようと考えていますので、ぜひ、委員の皆さまにもお配りさせていただきますので、活用いただけますととても嬉しいなと思います。この読みたくなる版の最後のところで、委員の皆さまのコメントを入れる予定をしておりますので、事前にいただいているコメントについては、漢字をひらがなに修正させていただくことがあるかもしれません。また、コメントの内容もまだ変更いただけます。広く声を聞かせていただけるように、QRコードから自由に意見が言えるような仕組みも考えていこうかなと思っていますので、そういった形で子ども若者の声を聞いて、聞きっぱなしになってしまうようななるべく頑張っていきたいなと思っています。説明は以上です。

○（議長）

これも象徴的ですね。子どもの幸せを考えるのは、大人がこうして携わって計画を立てているけれども、楽しんでいきますよね。ウメっていいじゃないですか。そういう大人の姿が子どもにも伝わっていくといいなっていう感じで。

○（事務局）

3月中旬頃に完成する予定です。完成しましたらお配りします。

<次第4. その他>

○（議長）

1人1分ぐらいになってしまうかもしれませんが、昨年度や今年度から関わっていただいた委員の皆さまには、ワークショップ等で色々なご意見をいただきました。ご意見がこういうところに全部反映されているということで、一緒にこう楽しく進めさせていただけたところであり、今年度の会議は本日で終了ですので、最後に一言ずつコメントをいただいて、計画に対する思いや願い、期待することなど、またそれぞれのお立場でも結構ですので、お願いしたいと思います。

○（委員）

計画案の大量の資料を送っていただいて、読みませていただきました。アンケートで長浜市にこれからも住みたいと回答した若者の割合が高かったのが嬉しかったです。私の大学では、長浜市出身の学生の90%から100%近くは、地元で就職してくれています。高校の先生に話を聞くと、高校生は地元で就職するという子がたくさんいます。せっかくこの地元に残って働いていこうという若者たちが、やはり転職もしなくて希望を持って生きて働いて、この長浜で、結婚も含めてライフデザインを形成していけるようなサポート体制や相談体制とか、例えば賃金じゃないですけど、経済的な安心っていうものを対応していただけるとありがたいなと思ってるところに、このような計画を作っていただきました。やはりこの施策がもっと実行できるようにということを私たちは願っておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

○（委員）

非常にわかりやすい、見てみようかなっていう資料をお作りいただいて、非常に素晴らしいなと思います。先ほど、こどもの本音をいかに引き出すかというお話もありましたけども、ittekiのような存在が非常に大事なのかなと思います。さあ、みんなの意見を聞きますよ、本音を聞かせてくださいねって我々大人が言ってもですね、彼らはなかなか言いませんので、忖度しますので、本当に彼らの声を聞きたかったら、そういう場をわざわざ設定するのではなくて、いろんな場面で我々大人が長浜市にはこういう計画があるんだよということを十分理解した上で、普段彼らと会話をしている中で、彼らの本音を聞いたら、しっかり捕まえて伝えて発表していくことが大事なのかなと思います。大変ご苦労いただいたと思います。

○（委員）

本当に素敵な計画もそうですし、わかりやすい版なども作られて、楽しみだなと思います。わかりやすい版ですね、みんなの幸せとあなたの幸せは同じかもしれないし、違うかもしれないとか、心理的安全性の話などを考えた時に、大人とか先生とか親とかがこどもを善悪で評価する、ジャッジするみたいな社会だと、大人たちの顔色を窺って、これはやめとこうこれは言ってもいいみたいな、そのような歯止めが色々かかると思うんですね。そうではなくて、みんなそれぞれだし、みんな違うよね、それを尊重しましょうみたいな、そのようなメッセージだなと思って、すごく嬉しく感じます。この計画を基に、長浜市全体でみんなそれぞれ思いもある、多様性を尊重するということとか、あとは自己責任や個人主義的な、私は知りませんというような、分断を生む社会じゃなくて、大人もこどもも一緒にやるし、こども同士ももちろん一緒にやるし、大人も、市の方、企業の方、いろんな方が一緒に手を繋いでやるみたいな、そういう協働ですね、一緒にやっていくという社会に向けて、この計画が良いきっかけになっていくといいなと思いました。また、主人公自体が良い言葉だと思って、これ前後の言葉だと思うんですけど、元々本当の自分とかそういう意味があって、こどもたちも本当の自分を見つけたらいいし、大人もですね、無理してやるんじゃないで、大人も主人公、自分、本当の自分としてですね、強みを生かしてなんかやっていけるといいな、なんかそういう社会になっていくといいなと思います。とても夢のある計画だなと思って見せていただきました。関わらせていただいてありがとうございます。

○（委員）

これまで長い間、こどもに関わる仕事とか活動をしているんですけど、こうやって、1つの計画に、色々な立場とか、色々な場面で活動しておられる方と1年近く一緒に活動することで、自分自身も、私は何がしたかったのかとか、何ができるのかとか、これからこの先どういうことを自分の中で描けるのかみたいなことを、自分も考えたりするきっかけになったので、自分にとってもいいな、良かったなと思っています。ちょうど私のこどもが高校生で、長浜のことを掘り下げる探求授業をしている中で、未来こども若者課の方が授業に来てくれているという話や、その中で、やはり茂森さんはとても有名で何回か授業に出てきてくれたり、一緒に授業を聞きに来てくれたりとか、こういう取材がしたい、こういう人をちょっと知りたいとか、こういうことをしたいけど、なんか漠然とまだまとまらないところで、どうしたらいいのかっていう時に、こういう人があるよとか、こういうことができるよといったことを未来こども若者課の方が紹介してくれるという話をされていて、実際にその自分たちが探求をして、結果も聞きに来てくれて、やっているという話をこどもから聞いていたんです。なかなか行政の人って、高校生と出会うきっかけもないですし、授業でこんな長浜になりたいとか、こういうことができるといいですよって話をしても、結果として、本当に実現できるのか、自分たちが探求したことはその授業で終わってしまうんじゃないかという部分が、実際に見てくれたり関わることによって、本当に実現するかもしれないという可能性を、こどもが持てるように繋がっていったらいいというか、こどもとの会話の中で感じるがあったので、その仲立ちというか、こどもがやりたかったりすることだったりの、その仲立ちになる人というのはすごく大事なのかなと思いました。

○（委員）

私が長浜市に移住してきてからの7年間でも、本当にいろんな仕組みとか、どんどん、どんどん変わっていくなつていうのを見てきたなと思っています。この未来こども若者計画も、私にとっては結構大きな1つで、移住してきて、ここで妊娠、出産を経験して、今3歳と4歳のこどもたちを育てながら暮らしているの、このような計画ができていくことに関われたこと自体、ものすごく私にとっても大きな出来事でしたし、これからポジティブに長浜がどんどん良くなっていくのを感じられてよかったなと思っています。

一方で、今回私は、この会議は子育て当事者として参加しているので、その当事者目線の話をする、3歳と4歳のこどもを育てながらフルタイムで働いていると、本当に頭の中の容量がいっぱいいっぱいというか。私は会議に参加しているので、資料をじっくり読むと思うんですよ。仮に会議に参加していなかったとしたら、計画が配られた時に読んで、こんなのができたんだ、よかったなって思った瞬間、忘れると思うんですよ。実際のところ、なかなかその声を上げるとか、その場に出ていって意見を伝えとかということとはとても難しいことだなとも思っていて、これからPDCAサイクルを回していくということなので、なかなか表に出にくい人、声を上げにくい人、意見を伝えにくい人たちのコメントや思いをどうやってキャッチしていくのかっていうのが、これから計画を回していく中で明らかになっていくといいなと期待しているところです。私もこの先ずっと長浜で子育てを続けていきたいと思っているので、どうぞよろしくをお願いします。

○（委員）

皆さんがすごい方たちの中で、本当に僕が参画していいのかなという思いと、なんか賢い塾に入れられたっぽいみたいな、会議についていくのにすごく必死だったんですけど、でも、こうやって長浜に、こどもたち、若者が幸せになる未来を目指すってところでこの計画に自分も携わることができて、すごく良かったなと思いました。本当に見やすい計画案もできましたし、本当にわかりやすい計画案、皆さんの思いがとても詰まった計画案ができたので、あとは、この施策パッケージが今後どれだけ、長浜市民の方に伝えられるかっていうか、どれだけ充実させるかが、これから大切になってくるかなと思いますので、自分自身もできることは頑張らせていただ

きたいなと思いますし、4月に3人目のこどもが生まれるんですけど、そのこどもが未来で長浜が好きだというような長浜にできるように、自分もできることに関わらせていただきたいと思います。ありがとうございました。

○（委員）

毎回緊張して、今日はどんなことを喋らないといけないんだろうって思いながらここに来たんですけど、こどものためにいい長浜にしたいなって思っている人たちと出会えて、ここで話した時間というのはとても自分のためにもなりましたし、こうやって同じ思いの人がいるんだなっていうのがすごく心強いなと今は感じています。計画についてなんですが、将来も長浜に残りたいですかという質問は、残ってほしいんだろうなっていうのをこどもたちは感じて、残りたいって回答している人は結構たくさんいるんだろうなと思います。人口が減って若い女の人が減っているという事実を考えた時に、アンケートの結果とこどもたちの本音のところにはきっと乖離があるんだろうと思っています。残ってほしい、残ってほしいって大人が言うっていうこと自体が、こどもたちの圧になっていると思うので、あなたはあなたが好きなことを十分やってくれたらいいよということを伝えることが1番大事なのかなと感じています。この計画が実現されていた時に、残ってもらうのではなくて、どんな人でも来ていいし、ちょっと違うなって思ったら出ていっていいということが許されるような、開かれた長浜になる方が良いのではと思っています。今を生活しているこどもたちには、自分の思いを自分で叶えてほしい、あなたの思いを応援する大人でいたいなと日々感じています。私は病児保育をしていると、医療的ケア児さんの利用希望はすごく多く、おそらく声を上げてなかった人たちが、保育園の周辺でできる環境が整ったことで、お母さんが就労できて、こどもが病気の時にどうするという声をたくさんあげてくれていると思うんです。計画が進んでいく中で、出てくる新しい課題や新しい意見をいかに聞いてどう応えていくかというのも大事なことだと感じています。どうもありがとうございました。

○（委員）

私はPTAの代表として参加させていただいているんですけど、学校PTAでもそうですが、続けていくことの良さと、続けていくことの難しさを今ひしひしと感じています。私は今年から、この会議に参加させていただいたんですけど、昨年度から続いていく中で、やはりここで終わってしまうのは私自身も、次に計画がどう進むのか少しわからない部分もあるので、そういうことがきちっと続けていく何かのきっかけになればいいかなと思っています。計画のわかりやすい版に絵がたくさんあると、小学生のこどもたちは計画としてはすごくわかりやすいと思います。案内者がウメというだけで私も愛着を感じるので、小さなことがきっかけで夢や希望を持ってもらえるような形にしてほしいなと思っています。

○（委員）

毎回この会議に出るたびに新たな気づきがあって、私自身は大変勉強させていただきました。本当ありがとうございました。今、小学校にいるんですけども、小学校で地域に出かけたりとか、地域の教材を使って地域に愛着を持ったりとか、地域に誇りを持つようなこどもを育てるために色々と教育活動をしております。やはりそういうことがものすごく大事なんだなということを本当に改めて感じさせていただきました。昨日も4年生のこどもたちと一緒に、早崎ビオトープがあって、そこにコハクチョウがたくさん飛来してまして、昼前の9時半、10時ぐらいになったらぱっと飛び立つんですけども、この様子をこどもたちと一緒に見ていて、私がこどもたち以上にその様子を見て感動して、そういうところがこどもたちにとって身近にあるので、こどもたちは幸せなんだなと思ひまして、こどもたちがわかってもらえるようにこれからも教育でなんとかしていきたいなと思ひました。本当にありがとうございました。

○（議長）

まずはもう皆さまに感謝でございます。色々と自治体のこども関係の会議に私もたくさん出さ

せていただいているんですけど、長浜が1番面白いですね。何が面白かったかというと、やはりそれぞれのお立場でいろんな意見が出てきて、そして意見の言いつばなしではなくて、お互い対話を通して、それを再構成していくというか、それがまた子どもたちと一緒にやっていかなきゃという、まさにこの魔法の計算式のように、子どものために何ができるかではなくて、子どもと何ができるかという視点に立っているというところが、やはりワクワクするというか、非常に良いなと思います。この会議に関わらせていただいたことは大変感謝ですし、皆さまのお力、それぞれのお立場のご意見がなければここまでのはできなかつたと思いますので、そういう意味で、会長というお役をお預かりさせていただいた立場として、まずはお礼を申しあげたいなと思います。本当にありがとうございます。これで終わりではなくて、これが始まりでございますので、またよろしく願いいたします。

<次第5. 閉会>

○（事務局）

西川会長、会議を円滑に進行いただきまして本当にありがとうございました。委員の皆さまにおかれましても、長時間にわたりありがとうございました。令和6年度のこの会議は今回で終わりとなります。4月以降につきましては、いよいよ出来上がった計画に基づきまして、いろんな施策を実際に実行していくステージに移行してまいります。委員の皆さまの任期につきましては4月30日までとなっておりますけども、皆さま方にはぜひ再任いただきまして、このPDCAサイクルやOODAループを一緒に回しながらですね、計画の進捗、それとさらなる磨き上げ、深化というものにぜひともご尽力を賜りたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。それでは、閉会にあたりまして未来創造部未来子ども若者局村崎局長からお礼のご挨拶を申し上げます。

○（村崎局長）

改めまして、本日まで本当に様々なご意見をいただきまして、このような素晴らしい計画、私たちが頑張ったという思いも込めまして、素晴らしい計画案を作ることができました。本当にありがとうございます。皆さまからお伺いしたご意見の中で、やはり大人も一緒に、という視点は長浜らしさがすごく強く出ていて、これをいかにこれから実現していくのか、本当に大事だなと思っています。これからも引き続き一緒にこの長浜を作っていくなと思いますので、ぜひともよろしくお願いいたします。今回キーワードになりました「笑顔」ですけども、子どもたちだけじゃない、大人も笑顔ということで、笑顔からスタートしていきたいなと思っています。今日の会議は終わりますけども、ぜひ皆さまの笑顔を写真に撮って、ここからスタートさせていただきたいなと思いますが、よろしいでしょうか。事務局も一緒に笑顔でスタートしたいと思っておりますので、皆さまと笑顔の写真を撮って終わりにさせていただきたいと思っております。本当にありがとうございました。

以上